

早明浦ダム再生事業環境モニタリング委員会（第4回） 議事要旨（案）

開催日時 令和7年9月4日（木） 14:00～16:00

開催場所 早明浦ダム・高知分水管理所（ふれあいホール）

出席委員

○：委員長

氏 名	所 属	備 考
石川 和男	松山東雲女子大学 名誉教授	
石川 慎吾	高知大学 名誉教授	
一色 健司	高知県立大学 名誉教授	
○ 笹原 克夫	高知大学教育研究部自然科学系 教授	

（敬称略。五十音順）

議事要旨

1) 委員会規約

早明浦ダム再生事業環境モニタリング委員会規約の改正（水資源機構の組織再編に伴う組織名の変更）について説明し、了承された。

所属が変更となった河口委員は後任が定まり次第退任の意向である。

2) 前回委員会における委員指摘事項とその対応

第3回委員会（令和6年10月1日開催）時の委員指摘事項に対する対応を説明し、了承された。

<委員からの意見等>

- ・令和7年度に新規確認されたゴショイチゴは、過去に生育していた個体の埋土種子が、伐採による環境の変化により発芽したものと考えられ、今後も出現する可能性がある。コストを考慮しつつ、中長期的な目標を見据えたうえで保全する必要がある。移植する場合は、現在生育している環境（斜面地で明るく、表土はあまり露出しない）と類似した場所が望ましく、そういった環境を創出するか見つける必要がある。
- ・令和7年度に移植したゴショイチゴは、発芽後1年目の個体であるが、より根が成長する2年目の個体の方が、移植後の生存率が高くなる可能性がある。次回移植する場合は、2年目となってから移植することも検討し、移植時は根の状態をよく観察・記録する必要がある。

3) 早明浦ダム再生事業の概要と進捗状況

再生事業の概要及び工程、進捗状況、令和6～7年度の工事実施内容を説明した。

4) 環境モニタリング結果

環境モニタリング結果について説明し、了承された。また、希少動植物等に係るマスキングの方針についても確認し、了承された。

<委員からの意見等>

【大気質・騒音・振動・水質】

- ・濁水に関する臨時調査の実施基準について、1週間継続の設定根拠を示す必要がある。ま

た、騒音振動等のモニタリング項目の基準値についても、委員会関係者以外にも基準値の設定根拠がわかるように、根拠を明示する必要がある。

- ・濁水の臨時調査体制は委員会資料の通りでよいが、騒音振動等その他のモニタリング項目についても、基準値の超過や課題が生じた際の対応・体制を明記する必要がある。年に1回程度開催予定の委員会を待つのではなく、異常発生時にはメール審議等で臨時の情報交換を行うといった対応方法を検討する必要がある。希少種の情報等、委員全員に共有することが望ましくない事項を除き、モニタリング委員会の委員全員に情報共有でき、委員会としての対応とできる仕組みができるとよい。

【水質】

- ・2018年、2019年（工事前の期間）の本山橋の積算濁度が高いことについて、降水による影響との考察で問題ない。がけ崩れや山奥もしくは川岸で崩壊等のイベントがあった可能性もあるが、降雨等との整理までで原因特定は困難と考える。

【希少猛禽類】

- ・希少猛禽類調査結果は、この地域の実態が良く把握されている。猛禽類は生態系ピラミッドの頂点に位置し、多くの猛禽類が生息しているこの地域は、自然環境や生物多様性が豊かであることを示している。

【植物】

- ・ユキモチソウは新しく増殖個体が確認されたことにより、個体群が維持されていることが把握できた。移植個体について、移植先③で減少している点については、生育環境に大きな変化はないものの、個体群が移動した可能性があることで承知した。全体的に問題はない。
- ・ヒナラン及びカンアオイ属も多くの株が残っており生育環境が維持されている。
- ・シランは河川沿いに生育する個体であり、寿命や出水の影響により、移植時の株数（149）から、本年度のモニタリング時の株数（136）への変化は起こりえる。シランは多くの株数が残存しており、周囲にも多く存在しているため、問題ないといえる。

【人と自然との触れ合いの活動の場】

- ・インフラツーリズムやかかわまちづくりといった取り組みなど、多くの人に親しんでもらえるようになって欲しい。遊歩道や駐車場、トイレ等のインフラは国交省で整備していただき、維持管理は地元自治体に委託する等、地元の方々や観光客等が喜んでもらえるようになればよい。早明浦ダム及びその周辺はアクセスも良く魅力のある場所であり、注目度も増えている。SNSでの情報発信、地元や高知県等との共同等により、早明浦ダム及びその周辺の魅力をもっと生かしていければよい。

【環境巡視】

- ・環境巡視による指摘があることは悪いことではなく、指摘に対してどう対応するかが大切である。発注者及び施工者が協力して今後も適切に対応して欲しい。

【その他】

- ・工事現場のライブカメラについて、一般に公開する点で有効な手段であるため、今後本格化する工事の様子がよくわかる位置に適宜設置するとよい。

5) 早明浦ダム再生事業と環境モニタリング委員会のスケジュール

再生事業の工事及びモニタリング調査の継続、次回環境モニタリング委員会の開催時期（令和8年8～10月頃）について説明し、了承された。

以 上